

令和 6 年

第 2 回（6 月）波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波佐見町議会

通告順位	1	通 告 者	13 番 尾 上 和 孝 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	甲辰園グラウンドからやきもの公園一帯の開発について 今年の波佐見陶器まつりは、25万人の人出でにぎわった。 波佐見陶器まつりは、小さい子連れの若い家族も多く、休憩するところがないとの声を聞く。 公園の開発は、やきもの公園一帯、ひいては波佐見町の活性化につながると考える。 そこで、次のことを問う。 (1) 甲辰園グラウンドからやきもの公園までは都市公園として指定されていると思うが、どこからどこまでの範囲を指すのか。 (2) 今年、鴻ノ巣公園に新しく遊具が設置され、若い親子連れでにぎわっている。 鴻ノ巣公園同様に、駐車場もあり、観光客でも訪れられる公園を甲辰園グラウンドからやきもの公園までの間に作ることはできないか。 (3) やきもの公園内の親水広場は、農業用水の水路として利用されていると聞くが、水路を移動もしくは地中に埋めるなどして、陶器まつりや憩いの休憩所として使える芝生広場へ変更できないか。 (4) 町として遊具を置く公園開発を今後どのように進める考えか。 またビジョンはあるのか。 (5) 波佐見焼の陶祖 李佑慶の碑を活用した観光開発ができないか。		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	2	通 告 者	6 番 岡 村 達 馬 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	1. 町道地内の民有地対策について 町道地内の民有地問題については、令和4年3月定例会による一般質問において、2年後となる令和6年4月1日の相続義務化にあわせた対応と対策を求めた。そこで、次のことを問う。 (1) 町道だけで約2,800筆、面積で295,000㎡あり、可能な範囲で進めるとの答弁であったが、その後の対応はどのようにされ、また現在までの進捗状況はどの程度か。 (2) この業務を行う担当部署はどこか。 (3) 現在の所有者相続登記にも大きな影響を与えることもある。もう猶予はなく、早急に動くべきだと思うがどうか。 2. 農業振興について 農業の多様化にある中、農家の収入のほとんどが稲作によるものであると言われている。 米作りは本町農業の根幹であると考えているが、稲作への支援、対策が後退しているように思える。 そこで、次のことを問う。 (1) 全国的に米農家の数が劇的に減少しているが、本町の動向はどうか。 (2) 今後の後継者問題や高齢化による稲作への人材確保をどのように図っていくのか。 (3) 長期間にわたる米価の下落も著しく、それに代わる農業の収益を図る対策はどのようにしているのか。		

質問の相手	町 長

通告順位	3	通 告 者	5 番 田 添 有 喜 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	1. 消防水利施設について 現在、日本の人口は減少を続けており、近い将来1億人を切ると予想されている。 本町においても人口減少は例外ではない。一方、本町の新築住宅総数は増加の傾向にあり、そこで気になるのが消防設備の充実である。 そこで、次のことを問う。 (1) 町内で町が管理している防火水槽は、どのくらいあるのか。 (2) 町の管理下になく、地区で設置及び管理している私設の防火水槽はどのくらいあるのか。 2. 自治会制度について 本町では自治会制度を導入し、これまで住みよいまちづくりに大きく貢献しているが、近年、自治会加入率低下の傾向がみられ今後の課題もある。 そこで、次のことを問う。 (1) 各自治会における地区の諸行事等への参加を免除している条件にどのようなものがあるか。 (2) 今後の自治会制度でのあり方について、どのような構想を考えているのか。 3. 波佐見町まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて 平成28年3月に「波佐見町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」が策定された。令和2年度には、第2期総合戦略（令和2年度～令和6年度）が示され、令和5年3月に改定し、今年度が最終年度となる。 そこで、次のことを問う。 (1) 基本目標2「産業の振興を図り、安定した雇用を創生する」の中に、「観光の振興」で観光客125万人を掲げているが、具体的にどのような戦略を考えているのか。 (2) 基本目標3「新しい人の流れをつくる」の中に、「関係人口の拡大に向けた取組み支援」とあるが進捗はどうか。		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	4	通 告 者	7 番 福 田 勝 也 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	部活動地域移行について 学校の部活動は、子供たちにとってスポーツや芸術文化等に親しむ機会であるとともに、貴重な人間形成の場となっている。 しかし、少子化による生徒数の減少に伴い、部活動に必要な部員を維持できない状況にある。また教師の働き方改革等により全国的に従来どおりの部活動の継続が難しくなっている。 このような状況を受け、国（スポーツ庁）は、令和5年度から公立中学校の休日の部活動を段階的に地域の活動に移行する方針を示している。 そこで、次のことを問う。 （１）波佐見中学校における各部活動の加入人数と顧問教諭、外部指導者の人数状況は。 （２）国、県の指針を受け、本町ではどのような対策や方針を計画されているのか。 （３）外部指導者の確保や人材育成、及び謝金などの予算の確保はどのように計画されているのか。		

質問の相手	教育長

通告順位	5	通 告 者	9 番 横 山 聖 代 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	絆の日について 令和5年度より、ゴールデンウィーク期間中の平日を体験的学習活動休業日とする「絆の日」が始まった。 2年間の実施により、様々な評価をされていると考える。 そこで、本町が目指す絆の日とは何なのかについて、次のことを問う。 (1)「絆の日」を始めたきっかけは。またゴールデンウィーク期間中に指定した理由は。 (2)「絆の日」の理念や目的は。 (3)2年間の実施により、どのような評価をしているか。		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	6	通 告 者	2 番 濱 本 秋 人 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	1. 河川の維持管理について はさみ温泉「湯治桜」付近の河川内の雑木、及び陶芸の館付近の雑草が河川内で目に余るものがある。 町として処理できないか。 2. 鴻ノ巣公園にかかる道路整備等について 鴻ノ巣公園に新たな遊具が設置された。 そこで、次のことを問う。 (1) 鴻ノ巣公園入口に接道する町道小野原線の道路幅が狭い。 拡幅できないか。 (2) 山角方面から町道小野原線上において、公園入り口付近に案内表示の看板がない。 設置できないか。 3. 第6次波佐見町総合計画について (1) 前期基本計画の中の歴史・文化・スポーツに「体育施設の計画的な整備と総合運動公園整備の研究を進める」とあるが、現在までの進捗状況はどうか。 (2) 前期基本計画の中の観光に「波佐見焼の認知度が飛躍的に高くなり来町者が増加している」とあるが、更なる増加を進めるために特別な対策をとられているか。		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	7	通 告 者	4 番 岡 村 真由美 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	1. 子どもの居場所づくりについて 学校に行かなかったり、行けなかったりする不登校の子どもが全国的に増えている。 そんな中、本町でも今年の4月17日、西田広子氏を講師に迎え「子どもの居場所づくり」と題した講演会が開催された。 そこで、次のことを問う。 (1) 講演会が開催されるに至った経緯、開催しての評価、また今後の計画は。 (2) 本町での不登校児童・生徒数の推移は。また「フリースクール」の必要性は。 (3) 将来的に放課後児童クラブを小学校施設内、または敷地内に設置する考えは。 2. 相続登記の義務化と本町の空き家対策について 土地・家屋の相続登記が、4月1日から法的に義務づけられた。 そこで、次のことを問う。 (1) 登記がなされておらず、町として困った事例がこれまでにあったか。 (2) 空き家数の推移と問題点は。また本町の空き家対策の現状と今後の課題は。 (3) 町は登記されていない物件の実態を把握できるか。 (4) 相続登記の義務化を町民に周知し、登記を促していく予定は。 3. 町民霊園に設置された合祀墓について 身元がわかっていながらも引き取り手のない遺骨が全国的に増えていると聞く。 本町では、町民霊園の一画に無縁仏の遺骨を収容する合祀墓が完成している。 そこで、次のことを問う。 (1) 合祀墓はいつ完成したか。また設置までに要した金額の総額は。 (2) 合祀墓に遺骨を収容できる無縁仏の条件は。また何体まで収容できるか。 (3) 町民霊園の空き状況は。		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	8	通 告 者	12 番 脇 坂 正 孝 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	1. 教育委員会事務局の新庁舎移転について 教育委員会事務局が新庁舎へ移転してから約5ヶ月が経過した。 メリットはあると思うが、利用者からは不便との声を多く聞く。 そこで、事務局の移転前・後について教育委員会事務局と利用者側にどう変化があったか。また、今後の事務局の在り方について次のことを問う。 (1) 町長部局との連携はどうか。 (2) 小学校・中学校との利便性はどうか。 (3) 総合文化会館、体育センター、図書館の利便性はどうか。 (4) 教育相談等の来所者の利便性はどうか。 (5) 利用者の不満は把握しているか。 (6) 新たに開始した総合文化会館の委託業務の内容はどうか。 (7) 事務局機能の一部を元に戻す必要があると考えるがどうか。		
	2. 鴻ノ巣グラウンドの整備について 鴻ノ巣グラウンドは、多目的スポーツ施設として、練習や試合など町内外の方に広く活用されている。 しかし、次のようにグラウンドや付属施設に不備があり、早急な改良と改善が必要と考えるがどうか (1) グラウンド ①雑草が広大に繁茂し、段差が生じている。 ②グラウンドの東側は排水が悪い。 (2) トイレ ①東側のトイレは、樹木に囲まれ暗く落葉が舞い込むなど不潔である。 ②東側トイレ（男子用）には、洋式トイレがなく設置を望む声が多い。 3. 選挙における投票率の向上について 4月28日に実施された衆議院議員補欠選挙は、本町では31.44%と低調だった。 (1) 低調の要因は何か。 (2) 過去3年の投票率はどうか。また、年代別にはどうか。 (3) 今後予定されている選挙の投票率向上に向けての対策として、期日前投票所の増設やセンキョ割りの実施はできないか。また、有権者への更なる周知はどうか。		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長 ・ 選 挙 管 理 委 員 会 委 員 長

通告順位	9	通 告 者	1 番 前 田 博 司 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	公共事業(建設関連)の現状と今後の対策について 現在の建設業界を取り巻く環境は、町内に限らず全国的に見ても大変厳しくなっている。人員の確保に苦慮し、熟練技能者の高齢化や退職により技術の継承もままならない状況だと聞いている。 また、急激な資材の高騰や機械や設備の I C T 化により、新たな設備投資も高額なものとなり経営を圧迫する事態となっている。 事業者の経営安定化のために、町として支援や対策が必要と考える。 そこで、次のことを問う。 (1) 現在、実施されている人材確保対策補助金を建設関連事業者も対象とできないか。 (2) 若年層の雇用促進対策や資格取得・技能習得に対する助成の考えはないか。 (3) 最低制限価格の基準を見直し、引き上げることはできないか。 (4) 町発注の工事成績(工事評定)は、受注業者へ通知し公表すべきではないか。		

質問の相手	町 長

通告順位	10	通 告 者	3 番 澤 田 昭 則 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	1. 公共施設の有効活用について 本町の公共施設等は、公共建築物やインフラ施設に分類し管理運営されている。 今後、機能集約、長寿命化、利活用促進等の取組を総合的に進め各施設の特性に応じた効率的・効果的な維持管理に取り組まれる。 そこで、次のことを問う。 (1) 学校施設（小学校運動場）、生涯学習施設（総合文化会館）、文化施設（歴史文化交流館、波佐見講堂）、行政施設（庁舎情報発信コーナー）などの有効活用については、どのように考えているのか。 (2) インフラ系施設（都市公園、町営住宅）の有効活用については、どのように考えているのか。 2. 町内の消費を促す対策について 令和6年7月3日より新紙幣の発行が20年ぶりに開始される中、景気は緩やかに回復しているものの個人消費は物価上昇により節約意識が高まり、厳しい状況にある。 そこで、町内において町民の消費を促す支援等の対策ができないか。 3. コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について 学校を取り巻く社会環境や児童・生徒の状況は変化し、学校運営協議会制度においては、学校運営や地域による学校支援など様々な課題について議論がなされている。 そこで、この制度を設置してから各小中学校においての成果と今後の課題は。		

質問の相手	町 長 ・ 教 育 長

通告順位	11	通 告 者	11 番 北 村 清 美 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	1. 災害対策について 本年1月1日の能登半島地震により多くの方が犠牲となり、同時に重要なライフラインの水道インフラに壊滅的なダメージを受けた。要因としては、水道管の老朽化と耐震化の遅れが壊滅的な被害を受けた一因とみられる。 全国からの支援により復旧は進んでいるものの、回復するまでには相当な時間を要する見込みである。 そこで、次のことを問う。 (1) 本町の老朽化による水道インフラの更新時期に水道管耐震化を図る工事の進捗状況は。 (2) 浄水場及び関連施設などの耐震化の状況は。 (3) 今後の水道管耐震化計画は。 2. まちづくりについて まちづくりは人口減少に対応した「先進的な少数社会」をつくり、次世代になく持続的なものとするべきと考える。 そこで、次のことを問う。 (1) 環境美化関連で相当な予算を計上して対応しているが、住民負担の重荷が大きく顕著化してきた。 対策はあるか。 (2) 現在、環境美化に関する関係所管課は住民福祉課、農林課、建設課で分散されているが、効果が十二分に機能しているかはなはだ疑問である。「連絡会議」を持って、効率化を図るべきと考えるがどうか。 3. 高齢者対策について 85歳を越すと半分ほどの人達が認知症などになる確率が高くなる。だからこそ少しでも遅らせることが重要な課題である。 現代の地域社会では壮年層中心となっているが、10年先、20年先も地域の居住者となる中年世代、若年世代まで拡大する必要があると考える。 そこで、次のことを問う。 (1) 運動などの奨励と普及の対策は。 (2) 支え合いや居場所及びサロンなどの状況は。 (3) 本町の介護保険状況は。		

質問の相手	町 長